

序 文

多田先生が古稀を迎えられたことを記念して「成城大学経済研究」の特輯号が発行されることになった。

多田先生を成城大学経済学部教授としてお迎えしたのは昭和四十四年であるが、すでにそれより二年前から先生には兼任講師として成城大学で教育学、教育原理の御講義をお願いしていたので、今日に至るまで実に満八年度の永きにわたって、本学の教育の発展のために多大の御尽力を賜わってきたのである。

先生がその御経歴について記述された詳細な年譜によって知られるように、先生は東北帝国大学法文学部御卒業後、つづいて東京帝国大学文学部大学院にてゲーテの研究をなされた。その後、文部省において教育制度・諸教育機関の実態の調査研究をされ、また東京商科大学において、ドイツ語および教育行政を、さらに同大学院において社会学特殊問題の講座を担当されていた。何人も知るように先生は教育学の泰斗であり、先生の著作目録を拝見しても立派な御業績が数多くあげられており、まさに敬服の至りというべきである。

このように教育制度・教育事情の御研究に没頭されとともに、一方において先生は教育実践の面においても大いに活躍しておられ、特に池袋幼稚園、武蔵野女子学院幼稚園等の教育の場を通じ、あるいは、大日本教育会、全国私立幼稚園団体連合会等の役員として幼児保育振興に努められている。机上の空論的な教育学ではなく、先生が年譜に付記されている通り、先生の人生観・社会観にもとづく教育実践によって裏付けられた教育理念が教育原理として説かれていることが知られる。

序 文

成城大学においても厳肅な熱意のこもった御講義によって学生たちの指導に努められただけでなく、大学の教務委員として、あるいは教職課程委員として学科履修方法の改善問題について重要な役割を遂行されたのである。しかも、大学のみではなく、成城学園高等学校においても自由研究「ドイツ語」の講義を御担当下さったのである。

昭和四十五年に成城教育研究会の紀要「成城教育第十一号」に発表された「成城学園の一貫教育について」と題する御労作は、成城大学経済学部において先生とともに教育に心がけているわれわれにとってまことに有難い示唆に富む貴重な御意見である。

先生の成城教育に対する御協力御寄与の多大であることを思い、多田教授古稀記念号を発行するにあたって、衷心より感謝しなくてはならないのである。

古稀を迎えられたとはいえ、その御年齢を想像させないほど御元氣な先生が、今後益々御健勝にて研究と教育実践についての御活躍を進められ、わが国の教育の進展に対して甚大な貢献をなされることに強い期待を抱いている次第である。

昭和五十年十月十日

成城大学経済学部長

岡 田 俊 平